膠原病リウマチ痛風センター主催
第44回 公開講座
—自分の病気を知ろう—

日 時 平成29年11月25日(土) 13:00~16:00 (12:30~ 受付開始)

場 所 東京女子医科大学 弥生記念講堂(本院 糖尿病センター隣り)
東京都新宿区河田町8-1 *当センターではありません。

内 容

《 第1部 》 13:00~14:40

『関節リウマチによる足の変形を治そう!』

.....猪狩 勝則准教授

関節リウマチは薬物療法が著しい進歩を遂げたことで関節破壊を生じる患者さんは間違いなく減っています。その結果15年前と比べて手術件数は半分になりました。しかし手術の対象になる患者さんがいなくなったわけではありません。むしろ足や手といった小さな関節の手術は近年増えていることが報告されています。特に足趾は手術件数が増えているだけでなく、その内容にも変化がみられていて、かつては関節を犠牲にする関節切除術や関節固定術が一般的でしたが、現在は可能な限り関節を温存する方向に進んでいます。その背景にもやはり薬物療法の進歩があって、以前ほど関節変形の再発を危惧する必要がなくなったことも一因と考えられています。実際、手術を行う患者の疾患活動性は年々低下していて、直近の調査では約半数が低疾患活動性以下であることがわかっています。今回はリウマチ足の手術についてご説明します。

『リウマチ疾患に関わる社会保障制度について』

.....田中 美里

リウマチ疾患があり、生物学的製剤が高額で経済的に心配になってきた、自宅での生活で不便さを感じるようになった、といった困りが生じたことはありませんか?そんな生活上の困りに対し、医療費助成制度の情報提供をしたり、福祉サービスを利用するために他機関と連携をとっていく、などといった支援を行う専門職としてソーシャルワーカーがいます。今回の講義では、当院のソーシャルワーカーの役割を簡単にご説明させていただき、リウマチ疾患に関わる社会保障制度についてお話ししたいと思います。

『関節リウマチのくすりの話』

.....山中 寿所長

関節リウマチの治療が良くなった、というお話はいろんなところで聞かれていると思います。実際、新しい薬剤が次々と開発され、発売されるようになって、リウマチ治療はずいぶん変化しました。関節リウマチの薬を服用する目的は、関節の痛みを取ることだけではありません。関節リウマチの病気自体を抑え込み、関節の破壊を防止することです。もちろん、病気を抑え込めれば、関節の痛みも軽減しますので、一挙両得というわけです。このような作用を持つ薬を抗リウマチ薬といいます。関節リウマチの患者さんのほとんどは、抗リウマチ薬が必要になります。抗リウマチ薬には、経口で内服する薬と注射製剤があり前者にはリウマトレックス、プロGRAF、リマチル、アザルフィジン、ケアラム、コルベット、ゼルヤンツなどの種類があり、注射薬には生物学的製剤と呼ばれるレミケード、エンブレル、ヒュミラ、アクテムラ、オレンシア、シンボニー、シムジア、インフリキシマブBSがあります。一方、主として痛みを取る薬はロキソニン、ポルタレン、セルベックスなどの非ステロイド抗炎症薬と呼ばれる薬やプレドニン、プレドニゾンなどのステロイド剤がありますが、あくまでも抗リウマチ薬の治療で十分に抑えきれない痛みに対する対症療法です。したがって、関節リウマチの治療では、抗リウマチ薬が主、痛み止めが従という関係にあることを忘れないでください。講演では、個々のくすりの特徴や、可能性のある副作用などについて、最新情報も交えて解説します。

《 第2部 》 15:00~16:00

療養相談(内科・整形外科・看護・リハビリ・食事指導・治験)

大変ご好評いただいている、生物学的製剤・手術・治験など経験した患者さんに協力していただき、患者さんが患者さんに相談するコーナーを設けます。

その他に、薬や病状についての質問など、内科・整形医師に直接相談出来る場も設けますので、ふるってご参加ください。